

Ⅳ 区政モニターレポート

区が行っている事業に対し、ご意見をレポートしていただきました。

実施期間	レポート 内 容	担当部署	回答数
9 月 12 日～ 11 月 29 日	「区民芸術祭 2015」について 区民の誰もが気軽に参加でき、質の 高い芸術文化に触れ、親しめるよう 開催されたもので、鑑賞した感想、 意見をいただく。	文化観光課	7 人

○「芸能花舞台」を鑑賞

私は母と見に行った。母は以前、踊りの先生をやっていたこともあり、久しぶりに舞台を見て大変感動していた。

私自身、花舞台を見るのは初めてだったが、日本の伝統あるものだと目が釘づけになった。以前、京都に旅行した際、舞妓の踊りを見たことがあり、日本独自の文化であり、世界でも恐らく日本でしかできないものであることに感銘を受けた。

今後も区内のいろいろなものに参加していきたいと思う。

○「品川区民作品展」を鑑賞

友人が絵画を出展したこともあり、初めてこのようなイベントに足を運んだ。いろいろな分野に多くの区民が参加、出展していることに、改めて良い企画だと感心した。それぞれ力作で、出展するまでの努力や苦勞が伺え、充実した時間を過ごしていることに拍手を送った。

品川区民芸術祭 2015 のパンフレットには、音楽や美術など多彩なプログラムが盛られ、今年は6回目で年々発展しており、すごいと感じるとともに、このような意識を持てたのも区政モニターになったおかげと感謝している。

来年はもっと積極的にいろいろな分野を鑑賞したいと思った。

○「日本初の女性報道写真家笹本恒子 100 歳展」を鑑賞

以前から〇美術館へ行ってみたかったが、今回の企画展があり、やっと思行く機会を得られた。笹本恒子さんは上大崎長者丸の生まれで、区に縁が深くうれしく思う。

この企画展には133点もの作品が出展され、ポートレートが多かったが、他の写真家と違う点は、どの作品も写される人物の自然さがにじみ出ている感じがすることだ。男性の写真家が撮ろうとすると身構えてしまうところがあるのだろうが、女性だと安心感が漂うのではないかと思う。それが自然に写真に映し出される。有名人ばかりで、歴史的にも価値あるものが多いように思われる。100歳になっても今なお現

役とはすごい。

都合がつくようであれば、ぜひ、区主催の写真撮影のエピソードを交えた講演会を開催できたら素晴らしいと思う。また、今回の展示はほんの一部かと思うので、品川歴史館が中心となり、区に関係のある人物や報道写真を選びすぎ、区としての価値財産をまとめてみるのも良いと思う。

○「Dream Stage 東京吹奏楽団 in しながわ」を鑑賞

第1部は組曲しながわ物語と題し、8曲を披露、吹奏楽団にスーパーエキセントリック・シアターが加わり、歌と踊りを披露した。司会にスーパーエキセントリック・シアターの女性が加わり、遠くまで通る声の良さと歌のうまさに思わず聞き入ってしまった。

第2部はクラシックから映画音楽までで、クラシックは数が少なく少し物足りなかったが、曲間の青島氏の解説が効果的だった。映画音楽はかつて流行ったレコード大賞曲のメドレーで、その時代のイメージが懐かしく思い出された。

吹奏楽団によるコンサートは初めてで、はじめは聞き慣れていないせいか吹奏楽器がうるさいと思ったが、聞き慣れてしまえば弦楽器中心のコンサートと違和感はなかった。強いて言えば、細かい微妙な音が弦楽器と違い聞こえてこなかった。次は弦楽器を含めた交響楽団での演奏を期待したい。

青島氏の司会は、クラシック音楽の背景や当時の作曲家の生い立ちなど含蓄のある解説が売りなのに、今回あまりその点が目立たなかったのはクラシックが少なかったからだろうか。

いずれにしても次を期待させるコンサートだった。

○「しながわ美術家協会展」を鑑賞

長く足を運んで見学している。大きな絵画等は素晴らしく、圧倒される。

このような展示は心の癒しになり、気持ちも晴れ晴れとして、あちこちの見学に足を運んでいる。身近で見られるのも楽しみだ。

○「ダンスフェスティバル」を鑑賞

大人のダンスに興味をひかれ足を運んだ。1部で欠場のアナウンスがあり出鼻をくじかれたが、代わりに1番目に登場した団体が幻想的で、一気に会場を踊りの世界へ引き込んだのは素晴らしいと思った。それぞれ個性あるステージで、重厚かつ工夫され、見る者を飽きさせない。ハワイアンの団体が多く、動作、笑顔に健康的な輝きがあり、心から楽しんでいる様子だった。手話ダンスは思いを伝える風情に涙が出た。ベリーダンスや古典舞踏では、ダンスやステップの歴史を垣間見る思いだった。その思いが現代風な若者の踊りで一気に現代にもって行かれた。高校生グループでは会場

前席からの仲間の声援に圧倒された。

舞台と会場が一体となり、現代のパフォーマンスまでが出揃うこのフェスティバルは、ダンスの歴史、世界を一つに凝縮した市民芸術パワーだと思う。

○「心あったかコンサート」を鑑賞

ジャンルにとらわれない庶民文化の祭典で、これほど幅広い音楽が一堂に披露されることは滅多にないのではないかと。どの作品にも努力と熱意と喜びがあり、表題通り音楽を通じて区民エネルギーが触発される心あったかコンサートを実感できた。

芸術はアマチュアによりつくられる証明と言えるほど、満たされた秋の1日になった。小山台吹奏楽団からも新鮮なエネルギーをいただいた。

区民としてこのようなコンサートがあることを誇りにしていきたい。末永く芸術祭を盛り上げていただきたい。また、出場者に感謝の気持ちを表したい。

○「邦楽の調べ」を鑑賞

和楽器独特の響きが心地よかった。邦楽のコンサートを聴く機会はあまりなく、楽器に触れるチャンスもなかった。音楽振興法が制定されて和楽器教育が学校に取り入れられたとニュースで聞いたが、私自身、自分の国の楽器の音色に思う存分触れたいという気持ちがあった。

司会者の静かな流れるような日本語が印象に残った。モーツァルト、シュトラウスの曲が入っていたが、琴で演奏され、西洋楽器では出せない音色だと感じた。

出演者の中に10代の方が混じって演奏しており、伝統音楽のよき姿だと感じた。学校で邦楽がもっと取り入れられ、若い世代がこの邦楽の調べに出演できるよう発展できれば素晴らしいと思った。